

トピックスⅢ

近隣諸国における髄膜炎菌性髄膜炎の流行～2004-2005年～とわが国の対策

わが国では、髄膜炎菌による細菌性髄膜炎は非常に稀な感染症として認識されているが、海外では、発展途上国から先進国に至るまで患者がみられ、WHOによれば毎年50万人の患者と5万人の死亡者が報告されている。関連記事を以下に提示したが、中国、フィリピン等の近隣国での髄膜炎菌性髄膜炎の流行は、対岸の火事ではない。決して稀な疾患ではないという認識を持ち、国内での髄膜炎菌性髄膜炎の発生動向の把握と、流行地へ渡航する場合の注意が必要である。現在、わが国にはワクチンがないため、渡航前に医師が個人輸入したワクチンを接種してもらうか、渡航先でワクチン接種を受けるしかない。(病原微生物検出情報 (月報：IASR)

の2005年2月号より抜粋)

IDWR2005年第3号、第4号海外感染症情報より

HYPERLINK

"<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2005/idwr2005-04.pdf>"

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2005/idwr2005-04.pdf>

●中国での流行性髄膜炎発生について

HYPERLINK

"http://www.moh.gov.cn/news/more_index.aspx?tp_class=C601&url_addr=/news/sub_index.aspx"
http://www.moh.gov.cn/news/more_index.aspx?tp_class=C601&url_addr=/news/sub_index.aspx 中国衛

生部 2005年1月31日、2005年2月5日
2004年11月から2005年1月30日までの、中国全土の髄膜炎菌性疾患報告数は546例であった。2005年以來、福建省、海南省、チベット自治区を除く各省で報告があり、上位5位は安徽省、河南省、河北省、江蘇省、四川省であった。1月の中国全土の髄膜炎菌性疾患報告数の累計は258名で、16名が死亡した。28の省、自治区、直轄市から報告があり、安徽省では21県から49例、河南省では23県から30例、河北省では17県から19例、江蘇省では16例、四川省では16例で、その他の省からは各省10例以下の報告があった。

●フィリピンでの髄膜炎菌性疾患—更新

WHO/CSR 2005年1月28日 2004年10月1日～

2005年1月28日に総計98名（バギオ市74名、Mt. Province 22名、Ifugao2名）の髄膜炎菌性疾患患者と、32名の死亡者（致死率33%）が報告された。フィリピン保健省と地方政府保健当局はGlobal Outbreak Alert and Response Network (GOARN) チームの支援の下、流行を制圧するためにMountain地方とBenguet地方に多分野対策センター（Provincial multidisciplinary operations Centre）を設置した。髄膜炎菌性疾患の検体採取と検出目的で、検査室の検査受入能力と患者管理が強化された。コミュニティでの集中的なサーベイランスと接触者追跡調査が実施され、詳しい疫学調査が進行中である。